

次年度の課題その3 児童の主体性の伸長を図るために

市教委に提出している学校マニフェストの中の「本校の現状と課題」欄には、次のような文言があります。

本校児童は真面目で、学習にも一生懸命に取り組めますが、自ら進んで学んだり、他者とともに考え学び合ったりする学習には課題がある。

全体的に穏やかで落ち着いているよさを継承しながら、自ら学校生活を豊かにしようとする主体的な活動の伸長を図る必要がある。

これは、何年か前から多少の訂正を加えながらも継続してあげられている文言です。2年前に学校教育目標の改訂時にあげられた本校児童の一番の課題も「主体性の伸長」でした。多くの先生方も納得のことと思います。

本校の児童のよさを継承しながらも、主体性を伸長していくことは、今後も力を入れていくべき大きな課題です。

ここ数年間も課題としてあげ、少しずつ解決に向けた取組が見られたとは言え、まだまだ成果は上がっていないと考えます。

どうすれば主体的に動くようになるのか。

一般的に、指示待ち人間になってしまうのは、指導者が指示をしすぎることに原因があります。学校でも、教員が混乱を悪と考え、先回りしすぎて、指導がきめ細かすぎることが子どもの自主性を摘んでしまうのです。

お節介すぎる教員の意識を変えていかなければ、本当の意味での自主性は生まれてこないでしょう。

手を出しすぎない。しかし、元来、お節介の塊である私たち教員は分かっちゃいるけどなかなかできないのも事実です。

それでも意識を変えなければできません。「手を出さない」、「子どもに任せる」、「失敗を許す」、「失敗をさせる」。こんな雰囲気

を校内に醸し出すようにしていきませんか。

そのための具体的な場としては、まずは、特別活動です。(もちろん日々の授業も)学習指導要領P179からの特別活動の項は、「課題を見いだす」「解決する」「自主的」「主体的」「協力」といった文言に溢れています。

本校の特別活動はいかがでしょうか。「混乱しないように」「効率よく」「準備万端に」「時間内に」など、教員側からの相反する指導となっていないでしょうか。

特別活動の4領域「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の各分野の取組を見直していきましょう。中でも、本校のような大規模校では、児童会活動を一層充実させることがキーポイントになると思います。最後の代表委員会での話し合いのような活動があふれ、そして具体的な取組を積んでいけるようにしたいものです。また、児童の地域貢献を進める上でも、児童会をリードする執行部的な委員会が必要だと思えます。その委員会が中心となり、担当の先生と一緒に、全校児童をリードしてほしいと思います。是非、児童会活動の改革に取り組んでください。

幸いにも、本市には、特別活動の著名な指導者である國學院大学教授の杉田洋氏が頻繁に来られています。私も、10月の県校長会の講演で、杉田氏の「特別活動等の集団における教育力の再構築と活用」という話を聞き、改めて特別活動のよさを感じ、そして、これこそが本校児童の主体性の構築の指針になると思いました。

是非とも、特活主任を中心にして特別活動の見直し、改善を進めてください。

問題が発生したときに、「先生、話し合いの時間をください。自分たちで話し合ってみます。」と言う子を育てていきましょう。「もっともっともっと楽しくてたまらない良城小学校」をみんなで創っていくために。